

牧草と園藝



異常気象との闘い



明けまして おめでとうございます。

酪農家の皆様が、今年は^{うし}丑年にあやかっ^て、より豊かで平和な年を過されるよう心からお祈り申し上げます。

さて、昨年は良い気候に恵まれました。全国的に、むしろ異常気象と言えるほどの高温多照で、各作物共に豊作、牛乳消費も伸びて、皆様もホッとされたことと存じます。

しかし、更に1年前、昭和58年は、春以来の低温寡照、特に東北、北海道は4年続きの冷害で、まさに異常気象に泣かされ、農業がいかに天候に左右されるかを、この2年間に極めて対照的に見せつけられました。

農業は、畜産も含めて、農作物による食糧生産事業であり、その農作物は太陽エネルギーによって生育し、生産をあげるものですから、過去にも何回となく、冷害凶作の苦しみを体験して来ました。

こう考えますと、この丑年も再び異常気象に悩まされるかも知れません。もちろん、風水害などの異常気象は人力の及ぶところではありませんが、長い体験と研究の結果から、冷害や早ばつ被害を最小限にする工夫のあることほご承知のとおりであります。

先ず第1は、適地適作、適品種の選択でしょう。品種改良も進んでおり、生産向上はもちろん、気象変化にも対応しやすくなっています。第2には、各作物の生育特性を知っての適期作業で、こうすれば、各作物は太陽エネルギーを十分利用して生産性を高めるでしょう。第3は、このように選ばれた各作物、各品種が完全に能力を発揮するような土地条件が問題です。

土地は無限の力を持ち、しかも太陽エネルギーを蓄えることが出来ます。輪作して深く耕された土、かん排水や堆厩肥施用による適正な土壤水分、石灰による酸土の矯正、そして太陽エネルギーの変身である豊富な有機物や有用微生物を持っていることが「肥えた土」であり、このような条件が揃わないと、せつかくの適作物や優良品種も、その能力を発揮出来ませんし、いわゆる異常気象の克服も出来かねます。

農業は気象との闘いです。気象によって皆さんの努力が無とならぬよう、今年も土の力を養い、適作、適品種、適期作業により、実り豊かな秋を迎えられるよう祈ります。

雪印種苗は、創業35年を迎え、永年のご愛顧に心から感謝申し上げます、今年も良心的、科学的な種苗、飼料をお届けしてご期待に^た応えたく、決意を新たにしております。

引き続き、変らぬお引立てを賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

昭和60年 元旦

雪印種苗株式会社

取締役社長

中野富雄